

# 研究レポート No.525



## 特裁でも慣行並みの収量！水稲特別栽培専用肥料の施用方法

### 【1 成果の概要】

- (1) 特別栽培専用肥料に含まれる有機質由来の窒素は6月下旬までは速やかに無機化し、約6割が発現します。その後は、発現が緩やかになり、最終的に約8割が無機化します(図1)。
- (2) 特別栽培専用肥料は、慣行栽培と同じように「基肥+追肥」の施肥方法とすることによって、慣行栽培と同等の生育、収量を得ることができます(図2、図3)。
- (3) この場合、食味に大きく影響されると言われている玄米タンパク質含有量は、慣行栽培と同等です(図4)。

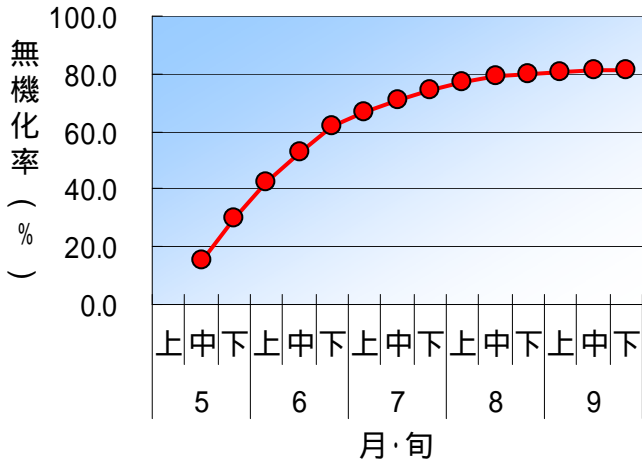


図1 配合されている有機質資材の無機化率

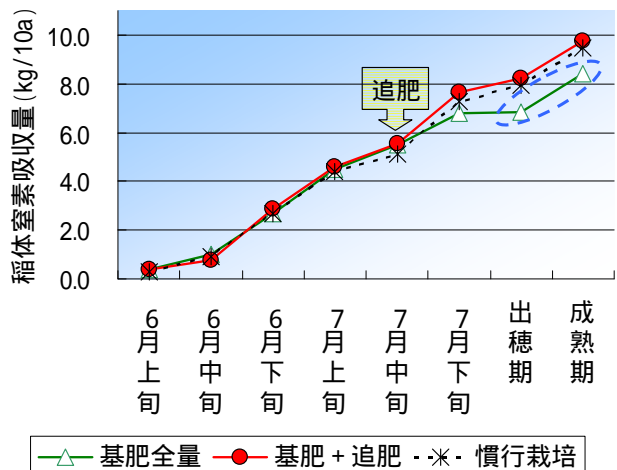


図2 稲体窒素吸収量の推移

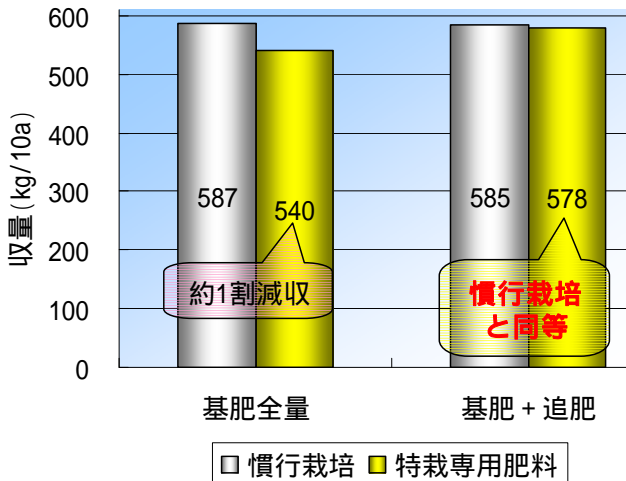


図3 収量の比較

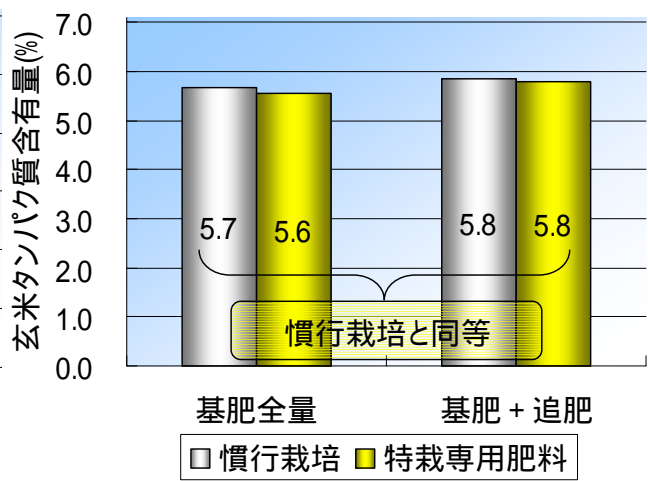


図4 玄米タンパク質含有量の比較

### 【2 留意事項】

- ・ この試験は、県内で流通量の多い、K社製の肥料を中心とした試験結果です。
- ・ 特裁専用肥料を基肥に追肥分もあわせて施用すると、後半肥効が切れて、収量が減少します。
- ・ 気象条件によっては、慣行栽培より初期生育が劣ることがあります。

### 【3 適応対象】

- ・ 岩手県内で、水稲特別栽培に取り組んでいる農家